

EMP×Shintaisei

拡張する身体性とその脳内表現

私達が持つ高度な脳機能は身体を土台として成立している。いま、目覚ましく発展する身体変容・拡張技術は、どのような形で脳内身体表現を変化させ、そしてそれによって、どのように私達がもつ身体意識に対して変更を迫るのだろうか？

本講演会では、身体拡張技術、神経科学、リハビリテーション医学、精神医学のそれぞれの分野における日本を代表する講師を招き、未だ解決していない身体性の謎に迫る。

日時 2016年3月20日(日)14:00~17:50

場所 筑波大学 第三エリア 3B213 プレゼンルーム

講師



名古屋大学大学院工学研究科 教授
長谷川 泰久



東京大学大学院人文社会系研究科 教授
ATR認知機構研究所 客員所長
今水 寛



畿央大学
ニューロリハビリテーション研究センター
センター長・教授
森岡 周



筑波大学医学医療系 教授
斎藤 環

プログラム

- 14:00~14:10 挨拶・講演会趣旨について 井澤 淳 (筑波大学システム情報系 准教授)
- 14:10~15:10 講演「人工肢の身体化技術」 長谷川 泰久 (名古屋大学大学院工学研究科 教授)
- 15:10~16:10 講演「内部モデルと身体意識」 今水 寛 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授)
- 16:10~16:20 休憩
- 16:20~17:20 講演「脳損傷および慢性疼痛患者の身体イメージの変容の特徴とリハビリテーション」
森岡 周 (畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター センター長・教授)
- 17:20~17:50 パネルディスカッション
テーマ「近未来の身体性と自己意識」
パネラー：斎藤 環 (筑波大学医学医療系 教授)
長谷川 泰久 (名古屋大学大学院工学研究科 教授)
今水 寛 (東京大学大学院人文社会系研究科 教授・ATR認知機構研究所 客員所長)
森岡 周 (畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター センター長・教授)